夕刊
二月三日發行

隨筆 包頭寸點（上）

原田小太郎

一、風呂

水が惡くて乏しい。そして錢湯が至つて少ない。い日か煤煙で汚れ切つた體を洗ひにゆく。バスはタイル張りでなかなか清潔である。上等が四十錢。然し氣の長い中國人は一日ゆつくりしてゐるのだからいゝ。高くはない。女たちは洗濯物を抱へてゆくの一寸的であるが、經營者の才で、全く困つてゐるらしい。邊境の地であるから、北京天津には比ぶべくもないが、この地ではこゝが最上等である。山奥の廟祭寺の喇嘛僧いづらくみがな顔遣つて驚いたことがある。恐らく、水を極度に貴重にする喇嘛ではなかなか入浴はゆるされないことであらう。そして、目下廟祭寺の大乘器を背負つて立つ大喇嘛（祭事）の知らないことではなからうか。

北京まで、卅日をつひやして歩く人々。西藏まで馬で、駱駝で百何十日の計算する人々のことであるから風呂の一日は全く僅かの時間ではある。餘暇をつくつて風呂に入り、指を剃り、爪をきらして、夕飯を支那料理にしたら、數日間の皮膚位は、すちどころに放散するさ宣傳しておく。

二、栗

北支各方面と呼應して、こゝ（包頭）は仲々ものが高い。夏の西瓜、赤いがうまくない。晩秋の大柿、八達嶺附近で出來て送られてくるらしいが、大きいばかりで、皮もうまくむけない。の寒さに入つて少さい露店でまで、甘栗を賣つてゐる。これはなんでも高い中で。とても安くておいしい。俗に天津栗と呼ぶたぐゐであらう。さつまいものないこの土地には女たちの一つのぜいたくなたべものでもある。

ついでに、駄菓子には、わが故郷を思ひ出す、仲々しやんとした「ねぢりんぼう」「かめ玉」が、かつぎ荷の中だ、ぽつんとあつたりするのを見出すと、もう正月がちかい田舍の匂ひをしみじみおもひおこす。

三、龍泉寺

東門を出て、こんもりした木立の中に、こんこんと温泉が湧き色彩の美しい御堂があり、子育の佛さまには小さい土偶人形があ

木のすくない土地で、よくもまあきり倒さずおいたものと感心する位、繁つた老樹である。この縁日には、幌馬車を驅つて遠近のむすめが集まつてくる。この中でひそかな見合などもあるかも知れない。しばらく無住であつたらしいが今は日蓮宗の布敎僧が入つて活潑な布敎をしてゐられる容子である。

この丘から、黄河のどろんとした水嵩がよく見ゐる。後ろの丘ね、日蒙兩軍猛戰の地で、いくつかの墓標の前に立つて祖國の英靈に私はお參りするのだつた。

2月4日
△平清盛薨す（養和元）△義士四十七人に死を賜ふ（元祿一六）△佐賀の亂（明治七）

2月5日
△堂上華族の混淆雜居を禁ず（明治三）△日露國交斷絕（明治三七）△カーライル死す（一八八一）

○

驢馬は旅行すとも馬となりて歸ることなし　英國俚諺

近詠（三）

猪狩牧秋

○家向ふの野を燒きゐます少年らつはものの如氣負ひ居るなり
○山陸は吹雪ならむと語りつゝ夕方はやく畑ゆ歸り來
○新年にひと歸り來も訪ふ間なくあこひつつすぎ去りにけり
○入津日は赤く大野を照しつゝ今日暖かく靄立ちそめり
○さびれ果つる庭の隅の沈丁はようやく赤き花持ちにけり

講談 振袖横町（135）

須藤鐘一 作　荻原萬象 畫

轉身（十）

その女は星明りでその場の様子をみてとつたか
「新さんを助けて下すつたのがあなたでございましたか、有難うございます」
と御禮を述べる。
「おぬしのお知合ひか―」
「はい、私はきり通坂下の泥屋の娘でございますが、こゝにおりますお方は、私宅にて種々とお世話になつてをりまする加賀屋といふ太物屋のお手代衆、家へお出になつて泥と言はれたのださうでございますが、合憎と誰もをりませんその由を申しますと、それに乗つて行つたとの事。後で聞は札附の惡、若し新さんに間違ひがあつたのでは、お店に申譯がないと存じまして、後を追掛けてまゐりましたので御座います」
「さうですかい、わつちが通りかゝると、おどしにかけてゐる聲が耳に入つた。それで様子をみると金を強ふ肚らしかつたので、おどしつけて追ひ返さうとしたが、相手もなかなかの喧嘩上手、どうせ生かして置いても世間の爲にならぬ奴ぢやねえと、そうおもつたから叩つきつてしまつたんで――」
「さうでございましたか、新さんは親孝行者で、親の大病ときいて、御主人に參拾兩のお金を借りまして、鮮人參とやらを飲ませ今一度丈夫にしたいとの念願つたのでございます。あなたのお通り合せはほんに神様の加護でございませう――。新さん、しつかりして下さいよ。男の癖におつしやい」
言はれてやうやく、やつとのことで禮を言つた。
「有難うございました。」
「あなた様は、どなたと仰有るのでございませう？お禮に伺はなければなりませぬゆゑ、どうぞお住居をおしらせ下さいまし」
「禮になんぞ來て貰はなくともいゝ、話して、その新さんと言ふ人は何處まで行くんだ」
「千住大橋のところまで」
『それぢや、此處から僅かな道のり――。又緣があつたら會はう、親父さんを大せつにしなよ――」
言ひ捨てゝ、金五郎は名も名乘らずに立去つてしまつた。

こゝに駆けつけた泥屋の娘、名はおきよ、まことに勝氣な女で、親父は芝の方へ矢張りかご屋をだしてをり、增上寺のお出入りなので、その方にはとんど行きつきり、きり通の店は女手一人できり廻してゐた。
ある時、子分の一人が、よひどれ武士に水を掛けたとか何とかで、手傷を受けたことがあつた。
これを奥できいてゐたおきよ、づかづかと店に出て悠然と立去らんとする浪人を
「お武家さま、一寸お待ち下さい」
と呼び止めた。
「何か用か？」
「店の者が水を掛けたのは惡いかもしれませんが、手傷を負はせるなどとは餘りにも亂暴千萬！とおもひます、何とか御挨拶のないうちは、お歸し申すことは出來ません――」
と、吃となつて談じた。
「無禮者、女の癖にその雜言！勘辯ならぬ、貴様もかうしてやる……」
と斷つてかゝる。
「それ姐さんが危ねえ！」
と言ふので、かご舁共總でになつてこの武士を相手にして、やうやくのことで、よつてたかつてぐるぐる卷にして、自身番へ突きだしたといふ、氣の勝つた女なのであつた。

拈華微笑

考査を神のみ業と見ねば乃らぬときが來た
○
問題に其を信奉する程大衆が現代的に柔順かどうかだ
○
同じ品を降らせて喜ばれたり嫌はれたり雪の方でも樂でない
○
興亞は內、共匪はそこ！明節分のお題目變更
○
盆中の梅數點の春を頌し、明後五日今年の春立つ

平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
內科・小兒科　院長 鈴木定藏　副院長 土井利明
內臟外科・一般外科・皮膚泌尿器科　副院長 高橋俊幸
レントゲン科・物理的療法科　院長 鈴木定藏
藥劑科　部長 吉本孝平
診療時間……每日午前八時ヨリ午後六時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

磐城の御みやげ品
改め靈峰羊かん
名物 みやま羊羹（名産梨かん）
――赤井嶽、二ッ箭山、山祇神社參詣土産！
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
小川郷驛前
製造販賣元 平屋賣店

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
最新型フォード
入車いたしました。
是非！御試乘の程を！
市內四丁目
スヾキタクシー
電二一七番

メガネ專門の店

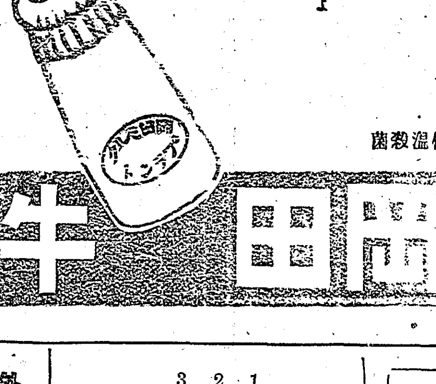
メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目 玉屋

桃源境――小瀧は招く
一日の淸遊には……どうぞ小瀧へ！
お迎へお送りに輕快な馬車の用意があります
鐵道指定旅館 割烹 小瀧
電話小名濱一〇三

ミシン
平驛前大通り（シンガー）
石川ミシン店
世界代表 シンガーミシン
日本代表 アサヒミシン
ニツポンミシン
コントロール
◎月賦販賣 ◎無料敎授

『旨い』と一言にして盡く
神戸牛 すき燒
相始め申候
日本料理 山茶莊
電話五二〇番

伸びよ太れよ牛乳飲んで
平市鎌田町
電話五一



低温殺菌
岡田牛乳

每度有難う御座います。
パン食普及の時代！
自慢の食パン 一斤十六錢
榮養パン　バターロール
甘コッペ　チヨコレートロール
野菜サラダパン　クリームロール
カレーパン・カツパン・黑パン
ベーカリー 東京堂
平市揺槌小路（電話一〇八番）

歸鄉御挨拶
謹啓 時下嚴寒之候益御清適の段奉賀候 陳者小生今事變頭初應召以來○○陸軍病院外科勤務中は公私共多大なる御高配を賜り大過なきを得常に感謝仕居候 今般不圖も召集解除と相成歸鄉仕候就いては今後銃後にあり一層勉勵仕心組に御座候間何卒倍舊の御鞭撻を賜り度茲に謹みて御挨拶迄如斯御座候
敬具
昭和十五年一月三十日
平市南町
上田耕作

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

男女 **車掌募集**（三名）
1、年齡十六才ヨリ十九才マデ
2、未經驗者ニテモ可
3、給料其他ハ委細面談
合名會社 平、四倉乘合自働車
平四丁目 電五九四

外科、內臟外科
エツキス光線科
院長 安齋徹
入院隨意
平市田町
安齋醫院
電話四七五番

學校を神と見ぬ限り 納得出來ぬ父兄兒童

市內受驗 關係四百餘家庭の神經 總動員

愈よ來月に迫つた入學考査に、折紙附きの一部優等生を除く多數受驗生、父兄、學校三位一体の緊張は漸く深刻化して來た。而も自校生徒の多くに榮冠を得させ度い人情が冷嚴なるべき理性を掩ふて各學校の內申なるものが悉く粒揃ひのものに出來上る場合ありとせば其れが必ずしも正鵠を得た考査資料たるかどうか、その根本に頗る憂鬱な懷疑を餘儀無くされてゐるに加へ、例の一般には極めて謎めいた『德性に因る判斷』なる正体がしつくりと呑み込めず、外形的に領かるるものとしては僅かに健康方面を知る唯一の運動跳躍あるのみで他は內申及び考査とも理窟ぬきで學校當局の決定を神のみ業と信奉せぬ限り覺に人間の頭では割りきれぬ問題と云ふ事になる。而して學校に於ける前後措置の當否は在平各中等校の定員七百二十名（新設工業の七十名をみ込む）の五割七分を占むる市內の男女受驗生約四百十名が果して從來の合格率による七割內外即ち三百名に近い入學者をだすか否かによつて大体そのけりが附くわけで、それが不幸半數乃至六割等に低下するが如き場合あらば、既往何年來實力を以て證明し來つた市內兒童の素質を一擧にして否定するわけであり、その期に臨んでは改制の是非は既に論議のいきよ遙かに遊離したじ代に入つて居る。刮目さるるは數字が示すその結果如何で關係各方面の神經はこの問題を中心に總動員されてゐる。

明後五日春立つ

瓶裡の水仙淡黃を吐いて 愈よ東風解氷の季に

さむ〳〵と悚たまつて居るうち、今年も盆中の梅花數點の春を領し、瓶裡の水仙淡黃を吐き、湯の嶽の遠山なみが紫に霞んで明快で、五日が立春である。立春とは二十四季の一で舊暦で正月の節に當り、太陽の黃經が三一五度に達するとき現行の太陽暦では概ね二月四日頃に當る。東風解氷、蟄居始振、魚上氷と稱し、此頃になれば次第に暖かさも加はつて春になると云ふ。なほ立春は舊暦に於ては種々の行事の基點となつて居たもので所謂八十八夜、二百十日、二百二十日等は何れもこの日を起點にして八十八日目、二百十日目、二百二十日目に當る日である

文字通り旱天の慈雨

微かな土の膨らみに漂ふ春の感觸 萬象遽然乾燥から甦る

近來の火早さ、作物の萎縮、咽喉具合のへら辛さ。各種各樣の見地から大待望の雪〃雨〃は、客臘七日以來前後實に二た月振りで昨夕來の雪が極度に乾ききつた地上を潤した。而もめすの節分から明後五日の立春と云ふはの暖かさに一望噯々の雪景色を見せる間も無く瞬く融けた水分は悉皆飢えきつた大地が吸ひ取つて、畠面の微かな土の膨らみに嬉しい春の戰慄が感觸される農村も麥畑に水を撒く深刻な勞苦が救はれ其所かしこの咳嗽も收まり、街の人々は深夜の空つ風に神經を尖銳化する火の怯れも大分緩和された樣である。神谷農試分場に於ける今三日午前十時觀測の坪當り降雨量二三ミリ四（四斗二升八合二二）勿論未だ〳〵降り足らぬが文字通り旱天の慈雨、此節柄蚊の涙の形容に天の恩寵を抹殺してはなるまい

職員室も開放し 兒童收容に腐心

新學期からの各小學校

市の明年度豫算中小學校營[illegible]は就學兒童の增加による第一校、第二校各一、第四校二の各學級增と諸物價と貴により今年度對比約五千圓增額の十二萬圓に大体お膳立てを整へた。兒童の收容難はまた新らたな悩みとなつてをり今のところでは舊平商校舍一部へ第一校から四學級、第二校から三、四學級を移して差し當りの急場をしのぐ方針で、かくすれば職員室や特別室まで明放して第二校では多少の餘裕がとれるが一學級增加の第四校では新年度から事務室も機械室もつぶれて窮屈な目にあはねばならないといふ。これらの窮狀を救ふべき第五小學校新築案も起債が現在の二部教授を條件としてゐるところから拋棄の已むなきに至つて居るので各校の悩みは相當深刻なるものがある

第二生から慰問袋

平第二小學校某組では前線への慰問袋四個を市役所へ寄託した

中堅農民連續講習

石城中堅農民の第十二回連續講習會は來る十二日から來月九日まで行はれるが講習科目左の如くこれに女子部は特にマシナージ調理法を教へると

產業組合、副業畜產、肥料、養鷄、養蠶、農業保險、負債整理、農地調整、農業簿記、農會經營、木炭製法、煙草耕作

大火靜岡へ 古河で四百七十圓

好間村古河炭礦では靜岡大火罹災者のため下野所長以下全山從業員が四百七十圓を醵出、東朝平通信部を經て送つた

鰯運搬船火を吐く

昨夜中の作港の騷ぎ

二日夜八じ頃鰯を滿載江名町中の作港に入港せんとした青森縣八戶市港町後藤要吉所有アグリ網運搬船氏見丸（十一トン二十五馬力）は防波堤前方二百米の港口で不案內から坐礁、折角とつた鰯を海中になげて離礁作業中突然發火、零じ半頃漸く鎭火した、損害一萬餘圓原因は乘組員の不始末によりカーバイトに延火したものらしい、なほ船頭佐々木榮次郎(三〇)外三名は中の作吉田濟松外四名の決死的活動で救助された

燒き棄れし反古供養

何年前かの投書を取り出して 隱れた人生斷面を見る

B

人物の異動その他當時の情勢とは全くその內容を異にして居るであらうが今日、時の經過から氣の脫けたビールの一盃を傾ける。

某小學校新任教員に寄す

父兄が教師を信じ教師が家庭を知つて初めてその兒童に對する眞の教育學方程式が構成する。故に父兄が學校に接し教師が家庭を訪ふは勿論である殊に新任教員たるものは父兄のそれぞれ先立つてその實情を探ぐる疎かではならない。先輩同僚の向ふを張つて校長に認められやうなどそれとなく野心を藏いた結果か？訓練第一だとのもとに先づ劣等生退治を始める、いぢめて、なぐる、そして注ぎ込む。そこでは決して退治にはなるまい。体罰によつて怯えさせた任附は、生きた訓練ではない、田舍の子ではない限り劣等兒にも當も血も涙もあるのだ、父兄はこれを知つた時決して喜ばない、何とも云へぬ惡感に打たれる。責任問題に相當する明かである。それが縣下に誇る大〇町の兒童教育者とあつては殊更である。特長は特長で賞讚するは人情の常だがジャンプのバネ仕掛けを鼻しかり、モデルの如く体軀をもつて兒童の頭を砲丸投の準備運動だと心得るは言語道斷である。田舍廻りの役者でもない限りもつと平町民の實情み入り父兄の心情をくんで恥からぬ徹的教育法を一そうせられん事をのぞむ

（一兒童父兄）

○

これは昭和六年七月三十日附で投書者の本名が記されてある

啓上本日の夕刊頁新聞紙上に割前金の事から桂庵同志が揉めるとのみだしにてH氏がY氏より周旋手數料割前を請求せられる事顏面頭部に全治二週間の傷を負はしめ云々と御記事有之候得共夫れは小生宅に於ての出來事にして事實はあべこべに有之候。即ちH氏がY氏に請求したものにて同氏の不德をたしなめると同時に手の平にて只一回撫で撫でたとでも申す方相當と思はれ候 然るにY氏兵訴せしとは自己の恥暴をすに均しかるべしと同業者の小生として却て氣の毒に存せられ候故に貴社に一言を呈し度前述申上候次第に御座候。敬白

手附金詐欺

木炭を賣るさ

平驛前旅館開盛館止宿下小川村柴原農上野義重(三六)は木炭飢饉につけ込み最近白銀町木炭商石井三子男宅を訪、木炭を送るからと手附金三百八十圓を詐取したのを手始めに同樣手段で市內某料理店から二十圓、某商店から八十五圓をせしめたこと發覺平署に檢擧された

お披露目

舊正を前にし、昨と浮名も『嬉しいなか』家と小濱と名乘つて新登場

平市慶弔錄

△出生 本籍鎌田町東京市下谷區入谷町二七四大槻兵三郎氏二男富士男君、本籍北目町一五五湯本町泰山六鈴木政明氏二女愛子さん

▲死亡 本籍古鍛冶町三六東京市王子區十條仲原一丁目八山崎金作さん(六三) 本籍正月町三六宮城縣名取郡增田町字町東八三遠藤榮三郎さん(六八)

雨後偶得

珠雲 小野務平

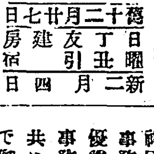
野叟投會立水塘
青山如洗碧低昂

天氣豫報 小名濱測候所觀測

今晚 北の風晴一時曇
明日 北西の風曇時々晴

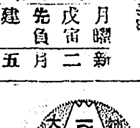
四日【小名濱測候所觀測】 滿潮 前三、〇〇 後一、二五 干潮 前七、三〇 後八、五五

五日 滿潮 前四、〇〇 後一、二〇 干潮 前八、二五 後九、〇五



新二月四日 日曜 舊十二月廿七日 丁丑 友引 建 房宿

▲一白 禍は我手より生ずること多し失物盜難注意▲二黑 注意せざれば親友と仲違を生ずることあり▲三碧 健實にたわみなく働くときは新氣運に向ふべし▲四綠 付け元氣を出すときは却て失敗の因となる▲五黃 何事も我が意志に反することの多き注意日▲六白 金運あり目上の助けあり事業次第に向上す▲七赤 新しき使命を帶びて進出せらるゝ吉日たり▲八白 進み過ぐるときは安定を欠くことあり注意▲九紫 午前は吉なれども午後は苦情に逢ひ易き日



新二月五日 月曜 舊十二月廿八日 戊寅 先負 建 心宿

▲一白 利己主義に流るゝときは人の親みを失ふ▲二黑 窮してぐちを出さゞるが眞の勇者自重せよ▲三碧 進路を誤り易き日自重警戒してあせる事勿れ▲四綠 初めの元氣永續せず次第に緩み勝の日とす▲五黃 うでの限りを盡して

廣告

夜間診療

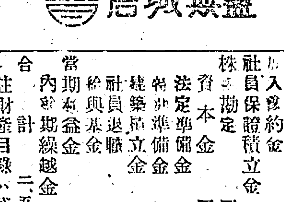
胃腸性病

內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 專門

松村胃腸性病科醫院

（平市南町電一〇七番）

（見習看護婦募集）



「貯蓄は無盡で」

磐城無盡

事務用ソロバン

神國式 事務用ソロバン（雲州產）
優勝印 事務用ソロバン（播州產）

共にソロバン中の一流品で御座います、仕上りがガツチリして而もお使ひ心地頗る宜しくあります
尙、ソロバンでしたら大小、とり〲小學生用まで多種入荷いたして居ります

平市才士小路 代理店 魁文堂 電話313

決算公告（十二月末現在）

資產（借方）	
現金預金勘定	一三三、九九七・六四
無盡勘定	一、三五二、三八〇・三四
給付口掛金	一、三五二、三八〇・三四
有價證券勘定	一八六、九三二・六七
貸付金勘定	七六六、八五二・四六
假拂金	三、五五六・六八
營業用土地建物什器	三〇、七六七・一一
不動產	一、三一〇・〇〇
株主勘定	七五、〇〇〇・〇〇
拂込未濟資本金	七五、〇〇〇・〇〇
合計	二、五九〇、七〇六・九〇

負債（貸方）	
無盡勘定	二、二七五、二四四・七七
未給付口掛金	二二八、三一〇・六一
入札差金	四六、七四三・六〇
解約返戾金	一〇、〇五四・六五
給付補塡備金	一一、九〇〇・〇〇
無盡利益備金	五一、一六〇・九七
入札差金	四八、八五五・六一
補證備金	
假受金	一四九、四四四・一九
日掛假受金	四、四四二・〇九
加入豫約金	五四・八九
社員保證積立金	四、五二九・三三
株主勘定	二三、八一〇・〇〇
資本金	一〇〇、〇〇〇・〇〇
法定準備金	五、二〇〇・〇〇
特別準備金	三、八〇〇・〇〇
建築積立金	五〇〇・〇〇
社員退職給與基金	三、三一〇・七七
當期利益金	四、一九〇・八八
內前期繰越金	七一九・九二
合計	二、五九〇、七〇六・九〇

註、財產目錄ハ貸借對照表ノ部ニ同ジニ付略ス

當期利益金ヲ處分スル事左ノ如シ

法定準備金	壹千圓也
特別準備金	壹千圓也
社員退職給與基金	五百圓也
役員賞與金	貳百五拾圓也
配當金	五百圓也
建築積立金	五百圓也
次期繰越金	四百四拾圓八拾錢也

當期給付金契約高 一〇、九七〇、五〇〇圓

昭和十四年十二月

磐城無盡株式會社

專務取締役 會長 小宅嘉久治
常務取締役 野內彌富
同 豐田豐治
常任監査役 有賀幸太郎
監査役 渡邊大

他店で御氣に召さぬ時に是非一度

─常磐線東京仙臺間であらゆるクリーニング機械設備の揃つてゐる……

純ドライクリーニング 西洋洗濯 平市田町 白榮舍ランドリー

正直なる仕事と優秀なる技術を望まるゝ方は

設備平市第一の 白榮舍ランドリー

稻荷丸 皇漢オルモン藥

キキメ

◇腹痛……には三粒デキキマス
◇胃痙攣……ムナサキ痛みには奇妙ニキヽマス
◇小兒の諸病……一日三回のませて見れば靈妙な作用で健康体となる
◇心臟病……少しの運動にもイキ切れドウキの高い方御服下さい
◇自動車醉……ニハ乘車前十分位ニ三粒服用セバヨイマセン
◇肺炎……一粒腹中に入れば心臟を强め精力活力を增加す

定價 百十五粒 五十錢 二百七拾粒 壹圓 貳圓五十錢 五百五拾粒 五圓

茨城縣笠間町（稻荷神社前） イナリ丸本舖 金子製藥所

─代理店─ 平市古鍛冶町一〇（縣社下） 阿康藥局 電話四十四番 振替東京三〇〇六五番 （有名藥局にあり）

產婦人科專門 平市南町 根本醫院 電話三四番 （入院隨時）

產婦人科 井坂醫院 平市田町 電五五九 見習看護婦入用

ほねつぎ 桑原柔道整骨院 平市公園下電六七四